

巻頭言



海外での経験

(財)日本植物調節剤研究協会 評議員
BASFアグロ株 開発登録本部長

古藤 修

私は、外資系企業に勤務している関係で、ヨーロッパ、アジアに出張、研修で行く機会が多くあります。初めて海外に出掛けた26年前の印象が、とても強いので、ここではその経験を中心に紹介させていただきます。ご参考になれば幸いです。初めてヨーロッパに出掛けたのは、1979年11月にイギリスとオランダでした。4週間の研修旅行で、イギリスでは、ロンドン、ケンブリッジ、オックスフォードなど、オランダでは、アムステルダム、デンハーグなどでした。羽田を発ち、ロンドンのヒースロー空港に到着後、二階建てバスで市内のターミナルであるピクトリアに移動しました。そこで初めて黒塗りの立派なオースチンタクシーに乗り、パデイングトン近くのホテルに行きました。タクシーは、日本の助手席部分は荷物置場で座席は無く、後部座席とは隔離されていて、後部座席は、向かい合わせに座れるほどの広さでした。まず無愛想なタクシー運転手と行き先の交渉をし、OKが出ても「乗せてやる」と言った態度でした。料金も荷物料金がある上、人数によって異なるので複雑でした。走り出すと、映画に出て来るように大きな車がかなりのスピードで街中を走って行き、また料金メーターが休み無くガシャガシャ上がっていくのが強く印象に残っています。下車の際、運転手はチップを呉れと言わんばかりの顔をして支払いを待っていました。やっとの思いでホテルに到着すると、今度は食事をする場所探しです。ホテル近辺のファミリーレストラン風の店で、取り敢えずビールと前菜、主料理を頼みました。ピタービールと前菜の海老のカクテルは最高で、そればかり注文していました。とにかく英語をろくに喋られない状態での旅行だったので、“ビール、プロウカクテル プリー

ズ”と言った調子でしたが、これで結構生活が出来ました。偶に贅沢しようとまともな中華料理店へ行きました。あちらのレストランは、店主が気に入らないと客を追い出すのです。イギリス人風の客が入って来て座ろうとしたら店主が追い出したのを目撃しました。全く呆れたもので、顧客重視ではありません。

日本での英語教育で要求される文章表現や文法はさて置き、度胸と目的とする単語の羅列で、何とかイギリス、オランダでの初めての海外研修は終わりました。しかし、このサバイバル経験が後の私の英会話に大変役立ちました。

ところで一番しんどかったのは、イギリス人に夕食を招待された時、彼の奥さんの話題が、第二次大戦の事や、当時ソ連の戦闘機が千歳への亡命した時で日本は如何するのかとの問いで、これには閉口しました。当時、イギリス人の歴史的な対日感情はあまり良くないと直感しました。

その1年後、タイのパタヤでアジア地域の研修に参加した時、夕食後の二次会で、スマトラからの参加者が日本語で軍艦マーチを歌ったり、過去の日本の事が話題になり、今まで日本にいた時には全く考えなかったアジア人の対日感情を考えさせられました。ショックでした。それ以来、今日まで数多くアジアに出張しましたが、そういう状況には遭遇したことは二度とありません。また後に、スイス訪問時にスイス人から「日本人は何故核シェルターを持たないのか」と聞かれ、これも全く考えてもみなかったため何とも答えられませんでした。

外国人と会話する時は、日本および相手の国の歴史的背景及び関係を考慮して接するように心掛けています。